

令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立沼田小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	52.3	46.7	52.3	52.1	48.7	50.9
算数	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	57	45.8	55.2	48.3	52.3	52.1
理科	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	/	/	50.5	50.7	53.8	51.3
全体	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	54.7	46.3	52.7	50.4	51.6	51.5

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	72.8 (66.4)	68.7 (70.6)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、文と文のつながりを考え読むこと(15.6%)、目的に応じて書くこと(9.5%)に課題があった。 ●算数では、「数と計算」領域で指定された図や数直線に対応した式をたてること(14.4%)、「図形」領域で複数の形を組み合わせた図、補助線を入れるなどして答えを導くこと(16.6%)に課題があった。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語では、知識・技能の学年別配当漢字(20%)、言葉の特徴や使い方の修飾・被修飾の関係(40%)に課題があった。 ●算数では、図形領域で、直角三角形の面積を求めること(20%)と二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求めること(40%)に課題があった。
---	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全教諭が「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。 ○全学級で自力解決の場面で自分の考えが書けるように指導する。 ○全学級で授業のふりかえりが書けるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②全教諭での改善計画の共有 ③全体研修により1つの教材研究を全教員で行う。自分の学年でも教材研究を行い、問いの設定を意識した授業改善を行う。 ④全国学力・学習状況調査の誤答分析を、全教員で共有し、課題があった領域の学習をモジュールで重点的に実施。実態に応じて解説・または授業に取り入れることで定着を図り、類似問題の出題時に解けるようにする。 ⑤全体研修にて児童ノートの書き方の基準を共有。後の研修で交流することで、各学年でどのような手立てが自分の考えを書くことにつながったかを共有する。 ⑥校内実力テストの実施・結果分析し、正解率の低い問題について指導し、同テストを再度実施する。 ⑦校内漢字検定を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①6月 ②7月 ③7月・10月～3月 ④9月～3月 ⑤10月 ⑥7月・12月・3月 ⑦10月・1月・3月 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期の校内実力テスト60点未満0人 ・児童アンケート、教師アンケートの肯定的評価80%以上 ・再テスト70点未満0人 ・漢字検定90点以上の児童の割合80%以上
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学級で、相手の良さを見つけようと努める学級集団作りの取組を進める。 ○一人では達成できない目標を、他者と協力しながら、学級全体で達成していく取組を行い、自ら伸びる、また共に伸びる意欲や力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②全教諭での改善計画の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ①7月 ②7月 	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)